

## 領域 10 インフォーマルミーティング議事録

【司会進行】田中 真悟(領域代表)、【書記】松川 義孝(連絡委員)

【日時】2022年9月14日(水)15:00-17:00

【会場】ハイブリッド(東京工業大学大岡山キャンパス W323 会場+Zoom)

【出席者】18名(田中(真)、是枝、松川、木村、橋本、Voegeli、川名、友田、佐藤、西谷、寺内、斉藤、清水、藪内、萩原、石田、竹下、土田、順不同・敬称略)

### 1. 領域委員会報告

2022/05/19 にオンライン開催された領域委員会に関する報告がなされた。

- ・ 秋期学会での企画講演、シンポジウム等の審議

領域 10 共催シンポジウム、チュートリアル講演、招待講演の件数が報告された。

- ・ 今後のオンライン開催について

理事会では、会場選定、現地実行委員の負担など運営の面から、感染症が終息した後も定期的にオンライン開催(年1回)とする可能性を検討していることが報告された。2023 年は春季大会としてフルオンライン、秋に年会を開催する予定。IM において、本件について議論を行い、以下のような意見が出された。

- オンライン開催だと、face to face での議論など、ポスター発表本来の意義を保つのが難しく、口頭発表を優先するような流れもできるのでは。
- 仮に年に一回オンライン開催を行うとした場合、春と秋でそれぞれにメリット/デメリットがある。

(参考:2022 年春 IM での意見)

感染症の状況によっては 2 回の会議ともオンライン開催になる可能性があり、現地開催を経験せずに卒業・修了する学生が出てしまう。また、素核と合同セッションを開催している分科もあることから、オンライン開催の時期を限定すると、これまで通りの交流が難しくなる可能性がある。

- 現地開催の大会においても、オンラインで参加/発表できる選択肢を残して欲しい。
- ・ 講演の英語対応について  
前回・前々回と継続審議をしてきたが、各領域の事情も考慮しながら、領域の裁量で英語化を進めて欲しい。新たな審議はせず、各領域からの意見を尊重して、本審議事項は今回で終了することになった。

- 物理学会内でも HP の英語化など、段階的に進めている最中。
- 領域7では、スライドを英語化する働きかけをしているところ。

## 2. 各賞の推薦依頼状況等

若手奨励賞、論文賞、米沢富美子記念賞の推薦依頼状況などが報告された。また、積極的に応募するようアナウンスがなされた。

- 若手奨励賞： 上限2名  
応募者2名、審査終了しており、事務局に推薦報告書を準備中。  
10月の理事会で受賞者が決定し、領域代表を通じて受賞者に通知する予定。  
2023年春季大会で受賞記念講演を実施予定。
- 論文賞： 締切 9/30(金)  
〈対象論文〉  
本年6月から遡って10年以内に Journal of the Physical Society of Japan (Supplement を含む)、Progress of Theoretical and Experimental Physics、JPS Conference Proceedings に発表された原著論文 (Review は対象外)。
- 米沢富美子記念賞： 締切 10/21(金)

## 3. 学生優秀発表賞について

応募状況などが説明された。現在審査委員による審査中、学会終了後に集計の上、審査委員会にて受賞候補者を決定する予定。

応募者 13 名 (申請は 15 名、うち2名は対象外)

〈応募要件〉

優れた発表を領域10において累計2回以上行った学生。申請以前の学会において筆頭者として口頭発表とポスター発表を累計1回以上行っており、かつ申請時の年次大会ないし秋(春)季大会における講演(口頭発表)の登壇者であること。 **対象外申請が散見されるため、要件の整理を次回 IM で議論したい**

## 4. 代表・副代表・運営委員

- ・ 2023年度の代表・副代表と次期運営委員・連絡委員が確認された。
- ・ 次々期運営委員として下記の候補者が推薦され、承認された。  
格子欠陥・ナノ構造： 山下 裕太氏(奈良先端科学技術大学院大学)  
誘電体・フォノン分科については、現在検討中とのことで、後日メールベースで付

議される予定。

- ・ 次期代議員の領域推薦について  
現任の黒岩 芳弘氏(広島大学)、吉矢 真人氏(大阪大学)の重任に加えて、新任の湊 丈俊氏(自然科学研究機構分子科学研究所)の推薦が承認された。残る1名については引き続き推薦を受付中。
5. 各種データ
- ・ 概要提出率、若手奨励賞受賞者数、学会開催地が報告された。
    - 概要提出率： 領域 10 は 98.9%、94 件中 93 件提出
    - 若手奨励賞受賞者数： 上限2名、現状維持
    - 学会開催地： 2023 年春はフルオンライン(3/22(水)-25(土)、秋は東北大学・青葉山キャンパス、川内キャンパス(9/16(土)-19(火)で現地開催
6. その他
- ・ 運営委員の任期について  
松川さんの任期を格子欠陥フォーラム終了時まで、運営委員に準じる形で延長したい旨を領域代表より依頼する旨の提案があり了承された。
  - ・ 連絡委員の任期について  
現状の半年よりも1年にして半年ごとにオーバーラップするのが引き継ぎなどでスムーズでは、という提案があった。1年は長いため、例えば半年+1ヶ月とするのも良いのでは、という意見があった
  - ・ 学会オンライン発表方法の周知について(特に英語版)  
事務局から発表者へ明確な通知がなかった模様。個別の周知はなく、Zoom の説明ファイルに紛らわしい記述があり、混乱を招く要因になったのでは。
  - ・ ML の取り扱い・領域情報の周知の仕方について  
領域・分科の ML や ML 以外の方法について意見を募った。分科ごとに ML や関係者リストを用いて周知しており、概ね機能しているという意見があった。運営委員 ML も適宜アップデートしていくことが確認された。
  - ・ 学会のオンライン開催について(主要な意見は1. 領域委員会報告の欄に記載済み)  
学生優秀発表賞の審査に関して、座長のコメントをお願いするかどうかについての確認があった。今回はハイブリッド開催につき座長への負担も加味してお願い

しなかったが、次回以降(2023春はフルオンライン)どうするかについては、継続して検討することが了承された。

以上